

グループワーク及び意見交換等

【グループワークのテーマ】

「食」の安全について

- ・不安に思うこと
- ・話題提供者に聞きたいこと
- ・児童生徒やその保護者が不安だろうと思うこと
- ・児童生徒やその保護者から聞かれるだろうこと

【グループ発表】

A班

- ・グループ内で食の安全に対して認識の違いがあり、うまく意見がまとまらなかった。

B班

- ・食品があふれているからこそ、好きなものだけを選択してしまう状況があると思う。
- ・食品添加物の『安全性』ではなく、『リスク』についての話を聞きたかった。
- ・食品添加物が使われているカップ麺やファーストフードの食事等を常食すると、ヒトの健康にどのような影響が出るか不安である。

C班

- ・食品の保存方法や温度管理について話し合った。
- ・食品添加物が幼い子どもにも影響を与えないか不安である。
- ・本日の情報提供を聞き、「安全＝安心」ではなく、自分がどう感じるかにかかると思った。

D班

- ・今のアメリカは日本の10年後の姿と言われているため、今後の食の安全に対して不安を感じる。
- ・表示を見ると中国産の大豆が多いため、不安を感じる。
- ・アレルギーや宗教上の理由で食べられない食品を持つ子どもが増えているが、食品表示が分かりにくく苦慮することがある。
- ・遺伝子組換え作物に対して不安を感じる。

E班

- ・清涼飲料水には安息香酸（保存料）やアスパルテーム（甘味料）が含まれており、子どもたちには摂取量をコントロールするよう指導したい。

F班

- ・放射性物質の検査はどの程度までやれば、保護者に安心してもらえるか検討する必要がある。

【意見交換】

(質問者：B 班、回答者：食品安全委員会 中越氏)

「食品添加物のリスクが正しく評価されているか不安を感じる。」

- ・食品添加物のリスク評価はラットやマウスなどの動物実験で行っているが、リスクが過小評価されないよう不確実さを考慮した上で、より安全側に立った評価を行っています。

(質問者：食品安全委員会 中越氏、回答者：D 班)

「人工甘味料に対する不安について、グループワークで解決できた部分はあるのか？」

- ・グループワークでは解決までに至らなかったが、安全性を考える上では、人工甘味料だけでなくビタミン C やビタミン A 等の他の成分についても、過剰摂取を避けるよう子ども達に教えたいと思う。

(質問者：F 班、回答者：食品安全委員会 渡辺氏)

「児童がノンカロリー飲料を長期的に過剰摂取した場合、飲料に含まれる人工甘味料がどのような影響を及ぼすのか？」

- ・例えば中学生が清涼飲料水を毎日約 1 リットル摂取した場合、安全係数を考慮すると、人工甘味料による健康への影響は少ないと考えられる。
- ・カフェインでは、過度の摂取による死亡例がある。
- ・カナダでは、カフェインの一日摂取許容量は 400mg/日（成人）が目安とされている。
- ・飲物からカフェインを恒常的に摂取するのには量的に限界があるが、タブレット状の物だと手軽に摂取できるため、過剰摂取にならないよう注意する必要がある。
- ・食品中のカフェインの安全性については、食品安全委員会ホームページに資料を掲載しているので、参考にしてほしい。

[参考] ハザード別情報（食品安全委員会ホームページ）

http://www.fsc.go.jp/hazard/ka_hazard3_s1.html

【話題提供者からのコメント】

(食の安全推進課 山地)

グループワークで話題にあがった同一食品の過剰摂取等の食習慣の乱れについては、対応が必要な課題として捉えている。本府では大阪府食育推進計画を策定し、関係機関と連携しながら食育を推進している。本日いただいた意見を食育担当課と共有したいと思う。

(食品安全委員会 渡辺氏)

本日は食品添加物の安全性について客観的情報を提供した。食に不安のある方は「分からないから不安」という考えが根源にあると思うので、そのような方には、本日の内容や食品安全委員会のホームページを紹介していただきたい。